

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

2000

新春

号【1、2月合併号】

さらば、ステージ・アップ 市民がスターの紙面づくり8年 — 15ページ

「市民アカデミー」の会員募集 — 裏表紙



いまを話す

ミニコミ誌「かわさきD.T」代表
庄司 佳子 さん
マイナスイメージぶつとばせ 主婦らの
パワーで
毎号「いいところ」特集

■ほんねインタビュー いまを話す 3

ミニコミ誌「かわさきDIT」代表

庄司 佳子 さん

マイナスイメージぶつとばせ 主婦らの
ハワードで

毎号 〳〵いところ〳〵 特集

■はりきつてます グループ紹介 8

エアロビクスでリフレッシュ

アイ フィール ファイン (宮前区)

各民族のステップをマスター

フォークダンス ルナ・向ヶ丘 (多摩区)

●学習・文化情報/会員募集/編集後記 10

市民ミュージアムで「大江戸マルチ人物伝 池上太郎左衛門幸豊」展

◇市民がスターの紙面づくり8年 15

さらば、「ステージ・アップ」

●春の市民アカデミー会員募集 裏表紙

□表紙絵 (アンコール、94年新春号)

……菅生が丘に咲く藪椿など 田村 あや さん

(小誌は再生紙を使用しています)

脚本・演出山吹草太 振り付け斎藤千雪

最後の晚餐

片隅の詩

2000年

2月24日(木)~26日(土)

24日、25日：19時開演

26日：14時、18時開演

新百合トウェンティワンホール

(新百合ヶ丘駅から徒歩2分)

全自由席

前売り3,000円/当日3,300円

[問い合わせ] 演劇詩人月のひまわり

☎(935)6769

共催：当事業団/後援：川崎市、市教委ほか

奥平哲也

マリンバコンサート



2月13日(日)

1回目 14時開演

2回目 18時開演

全自由席2,500円

新百合トウェンティワンホール

(新百合ヶ丘駅から徒歩2分)

〈曲目〉春の海、剣の舞、チゴイネルワイゼン他

〈問い合わせ〉

マリンバ奏楽の森 ☎(533)5389

共催：当事業団

いまを話す

ゲスト

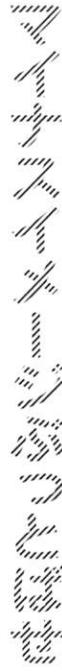
ミニコミ誌「かわさきDT」代表

庄司 佳子 さん

Vol.81



毎号「いいところ」特集

主婦らの
パワーで

——新春号に元気な女性の「かわさきDT」編集長の庄司さんをお迎えするのは、うれしいことです。DTとはDown Town、つまり「下町」を意味するようですが、発行のきっかけなどを教えてくださいいただけますか。

庄司さん 川崎南部の中原、幸、川崎の三区と高津区が対象エリアで、発行のきっかけは「温かい下町的な雰囲気のあるまちをPRしたい」と思っています。一九九六年四月に創刊し、年三回発行しています。

——「かわさきDT」のバックナンバーを読ませていただき、定価が三百円で、千部発行されていることを知りました。どこで入手できるのですか。

庄司さん 書店ですとか、以前からお付き合いのあるお店で販売しています。

——「かわさきDT」は、日常生活のにおいが立ちこめていすね。普段着でまちを歩いているような思いで楽しく読ませています。できました。

庄司さん 「人とまちをつなぐ」「人とまちをネットワークする」、そんな情報誌をつくりたいと思っていたので、そういうふうに見ていただけ、うれしいです。

——どのへんの年齢層を意識して作っているのですか。

庄司さん 「まち」という観点から、あらゆる年齢層ということになります。しかし、読者のなかで、いちばん多いのは四十代から六十代の女性の方です。

——「このまちで生活している」ことを実感する女性が読者なので、地域に密着したお店の紹介が載っている「DT」は日ごろの暮らしに役に立つのでしょうか。

正月早々ごめん。川崎にはなぜかマイナスイメージが付きまとう。公害都市、ギャンブルのまち、風俗天国。冗談じゃない！東西の隣接都市にもマイナスの側面はたくさんある。川崎市は世界有数のハイテク・バイオ産業集積都市だ。羽田空港にもっとも近く、文化人や芸術家が多く住み、人材の蓄積も抜群の国際文化都市なのだ。行政も「イメージアップ大作戦」を展開。だが、肝心の市民の意識は？。さて、ミニコミ誌「かわさきDT」をご存知か。その理念は「人とまちをつなぐ」。その実現のため、庄司佳子「編集長」ら主婦スタッフが考え出したのが「川崎のいいところ特集」。「DT」を読んで「へえ、人もモノもすごい」と、わがまちを見直すはず。聞き手は女性の生き方を見つめる椎野和枝さん。

すぐれ川崎産紹介に大反響

メイド・イン・カワサキ

まちの達人や女性起業家も発掘

庄司さん ええ。大都会では、長く住んでいても知らないことって結構ありますからね。

——毎号の発行を楽しみにしている方も多いでしょうね。

庄司さん 十二月に最新号の十一号を出しましたが「反応」が出るのはこれからです。その前の十号(五月)で「まちの達人」を特集したときは、かなりの反響がある



りました。まちで活躍しているけれど、あまりメディアに知られていない方々にも登場してもらいました。

——「まちの達人」の基準は?

庄司さん 私たちは、自分ひとりでは暮らしていけませんし、だれもが「いいまちで暮らしたい」と思っているはずですよ。いいまちをつくるために、自分は何ができるのか、どんな役割を担えるのかと考えて、実際に行動している人たちが「まちの達人」ではないかと思えます。有名か無名かではなく、スタッフが出会って「素晴らしい」と感じた方がたくさんいますが、そういう方たちの層が厚くなれば、まち全体が思いやりにあふれた成熟した暮らしやすい空間になると思うのです。

——地域で地道に努力をしている方の情報をどうやって集めるのですか。

庄司さん やはりネットワーク

ですね。編集スタッフは全員主婦ですが、常にまちの中で活動しながら情報も集めています。「そういう人なら知っている」「こういう人はどうかしら」というように網の目のような情報ネットワークを持つているのです。そういう意味では、彼女たちも「まちの達人」といえると思います。

——ところで、「DT」のスタッフは何人ですか。



庄司さん 編集・発行の「わいず工房」のスタッフが六人で、ほかに編集だけ、取材だけの方も入れて十人くらいになります。

——雑誌づくりで、重要なのは企画ですが「かわさきDT」は毎号、特集記事を載せていますね。各スタッフが情報を持ち寄り話し合う中で、特集が決まるのですか。

庄司さん 取材の中に新しい出会いがあって、思いがけない情報

をつかむことがあります。そうした情報をベースに話し合い、筋書きが出来上がっていく感じですよ。

——文章を書くことに慣れていらっしゃる方がスタッフなのですか。

庄司さん いいえ。三人で始めましたが、みんな素人でしたので、初めのうちはとても苦労しました。

——ミニコミ誌を作るきっかけに何かがあったのですか。

庄司さん 九四年に幸市民館の地域セミナー企画委員になり「夢づくり講座」を企画して、その集大成として受講生十五人で「歩いていけるさいわいわくわくマップ

庄司 佳子 さん

しょうじ・よしこ=1952年、東京生まれ。10年前、障害児施設を退職。地域の環境問題などで活動を始める。現在「矢上川で遊ぶ会」「わいず工房」「ミニコミ誌『かわさきDT』『かわさきDTペコム』」各代表。99年、市教委から「市南部子どもセンター」の運営、情報誌発行を委託され子ども情報誌「遊遊ごりら」発行。同年10月、市環境功労者表彰。市地域環境リーダー、川崎ボランティアセンター運営委員、鶴見川流域ネットワーク世話人。幸区南加瀬在住。



「ブ」を作成しました。そのとき、取材の仕方や文章の書き方、広告の取り方などの基本を身につけ、取材する楽しさを発見した仲間三人で「ミニコミ誌をつくらう」と。

——間もなく立ち上げて、スタッフも増えて……。

庄司さん そうなのです。取材して、原稿を書いて、それをお互い読み合ってチェックするシステムで記事を作ります。でも、素人が書く原稿は、思い入れが強すぎるのです。初めのうちは、それを指摘された筆者が全人格を否定されたような気分になり、何度も「ダメ」を出すとめげてしまうのが悩みでした。そのうち、スタッフの得手不得手が分かってきて、自然に役割分担ができました。

——これまでに扱われたいくつの特集を取材してみて、いかがでしたか。

庄司さん 「川崎で起業する」では、若い女性起業家たちのしなやかさとたくましさに触れることができました。また「川崎アート」では、川崎で活動しているいろいろなジャンルのアーティストたちの芸術に賭ける情熱に共感しました。

この他に「川崎で素敵に生きる」とか「MADE IN KAWASAKI」「地域デビューなんか怖くない」というテーマの特集を続けてきました。

——十号を超えて、どんな思いですか。また、読者の反響は？

庄司さん 「ひと区切りが過ぎた」「たったの十号」という異なった思いが交差しています。「寄席・笑う門にはひときたる」が、いちばんの反響で、多くの方が「川崎にこんなに寄席があったんだね」と驚いていました。それと、スタッフが帰省する時に、ふともらした「川崎のお土産って何だろう」から取材が始まった「MADE IN KAWASAKI」も反響が大きかったですね。

——私も実家に帰るとき「おみやげ選び」に役立てました。

庄司さん 地元産であることを知らなかったものが結構あり「そ

の良さが分からなかった」とは取材したスタッフの一致した感想です。市民が「川崎名物」を欲していることが分つたのは収穫でした。

——お菓子だけでも結構あると思いますが、どのように取材されたのですか。

庄司さん 地元のお店の多くは、

「思ったほど反響がなかった特集もありましたか。」



アタマはフル回転でも仕事は楽しくがモットー

自分の家で作って売っています。私たちが食べてみて「これは」と思うお店に行ってお話を伺いました。取材してみますと、古くからのお店も工夫を重ね、常に新しい試みをしています。地元のクリ

や桃などを使い、地名にちなんだお菓子の名前をつけています。

——お店の方も取材を受けて、元気がますますね。

庄司さん お店の方も市民ですが、普段は売り手と買い手の関係です。取材をすることで、市民の部分がぐっと見えてくる感じですよ。

——思ったほど反響がなかった特集もありましたか。

庄司さん 「地域デビューなんか怖くない」がそれです。これは、母親が初めて子どもを連れて公園に出かける「公園デビュー」に引っかけ、定年退職した人たちが地域で活動することを「地域デビュー」という言葉で表現したわけです。男性が定年後だけでなく、地域とどうやって接点を持つとされているのか、先進的な試みと思つたのですが……。この特集を載せた一九九七年当時は、面として広がっていませんでした。二年以上経つたいまは、状況が少しずつ変わってきて、若い世代の「PTAのお父さんの会」ができてきたりして、男性たちの地域へのかかわり方が違ってきていると感じます。

——男性が地域に目を向けるといふことはいいですね。



庄司さん この特集は時期尚早であったのか、読者のみなさんの反応は今ひとつでしたが、いろいろな方にお目にかかれ、取材した

まちと川とのつながり知れば 環境、福祉、 人権みえる

側としては面白い経験をしました。——そういう社会現象を地域に根ざして取り上げたのは「かわさきDT」らしい試みだと思いますね。ところで、取材エリアが限られていて、マイナスになることはありませんか。

庄司さん 私たちの生活エリアは、お隣の横浜市鶴見区や港北区、東京・世田谷区ですので、そこも取材エリアに入れていきますので、そのように感じたことはありません

。行政の境を越えて市民活動を取材して、刺激を受けています。

——「かわさきDT」を通していま、市民の方々にいちばん伝えたいメッセージは何ですか。

庄司さん 「私たちが住むこのまちには、こういう人たちがいる」ということを伝え、人と人をつないでいきたいという思いです。

——地域社会が崩壊して久しいのですが、庄司さんは人が好きなのですね。

庄司さん いろいろな出会いがあつて、応援してくださいの方がいて……。DT、ダウンタウンの言葉の中には「足元」というニュアンスが込められています。自分が立っている足元をもう一度見つめ直すこと、「足元のまち」を意識することがまちづくりの基本とされています。

——その足元で、いちばん興味を持っていることは？

庄司さん 環境とミニコミ誌で

すね。家のそばを矢上川が流れているのですが「この川がきれいなれば、世界の環境も良くなる」と考えるのです。そして、「川で遊べるようにしたい」という思いから「矢上川で遊ぶ会」をつくり、大人も子どもも一緒に参加できるように少しずつ輪を広げているところです。

——環境をよくする活動が「かわさきDT」の特集「川崎の水辺」に生かされ、流域での楽しみ方を紹介していますね。

庄司さん 私たちが住んでいるのは、まちであると同時に流域なのです。まちは、文化の源である川、流域につながっています。自分の住んでいるまちの地形やつながりを考えると、自然と自分とのかかわりが分かってきます。環境についての身近な素材が「流域」



椎野和枝さん

椎野 和枝さん

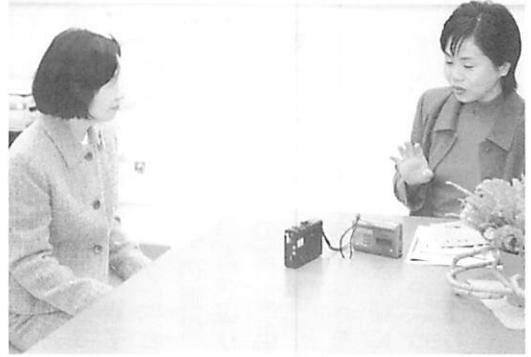
しいの・かずえ=1934年、京都市生まれ。同志社教育、毛島女性史研究会を経て80年から川崎市民。女性の学習情報をつなぐ会、東洋大学特別研究会、川崎「ぶらすI」所屬。共著「続広島の女性たち」「テキスト現代女性読本」。麻生区白山在住。

「川」です。「鶴見川流域ネットワーク」です。「住み場所の感覚」とおっしゃいます。それは私達のいう「Down Town」「足元」ということです。今後「この足元はどこにつながり、このまちとどうかかわっているのか」を歩きつ戻りつしながら考えていきたいと思っています。私が二十五年間住んだ川崎が足元であり、心のふるさとになりつつあると実感しています。

——川崎が「足元」と感じられたのはいつごろからですか。

庄司さん 地域でいろいろな活動をするうちに、足元を自覚するようになり「娘にとっては生まれ育ったところだから、ふるさと。大事にしなくては……」と思うようになりました。

——お子さんが生まれてから、



地域に根をおろされたこと。

庄司さん 結婚して川崎に住み、職場も川崎だったのですが、はじめのころは土地にも人にも興味を持っていませんでしたから、私自身が「地域デビュー」したということでしょうか。

——地域デビューの直接のきっかけみたいなことがあったのですか。

庄司さん 家のそばに、ごみの中継施設ができることになったとき、その影響について、みんな話し合う会を作ったり、署名運動をしました。ただ、反対するだけの会にはしたくなかったので、環

境のことをトータルに考える会にしたいと真剣に思いました。そして、そこで出会った人たちと深いお付き合いができるようになりました。一つのことに興味を持つと、どんどん他にもつながっていくことがわかりました。環境も福祉も人権も根元はひとつですから。

——素晴らしいですね。その集大成がまちづくりですね。

庄司さん そうです。私はいろいろな活動をしています。いくつかのステージを持っています。違っても楽しいことです。違うジャンルの方と親しくすることもできるし、行き詰まった時に違った活動の中でヒントをもらったりすることもあります。

——そういう人間関係が「川崎で素敵に生きる」の特集を生んだのだと思いますが、「女たちが本音の自分を表現できる場をつくり始めている」というところは、庄司さんご自身のことでもあるのでしょうか。自己実現しようとしている女性たちの中で、何か新しい生き方が芽生えはじめていると思えますか。

庄司さん 物事というのは一挙に変わりません。とくに、主婦の

場合は家族の理解にも時間がかかります。最初は子どもに「お母さん、また出かけるの」と言われたこともありますが、理解してくれるようになる。「こういう情報があるよ」と教えてくれます。夫も私にプラスになる情報を提供してくれるようになりました。

——ご家族がよき協力者ですね。一生懸命さが伝わると、まわりの人も変わっていくのでしょうか、



庄司さん をそこまでかり立てたものはいったい何なのでしょう。

庄司さん たとえば、川辺を実際に歩いて観察するような場合、一緒に歩いた仲間も私も何かを感じると、その中から問題点を拾いあげて取り組んでいこうとするわけです。その過程が面白いのです。さまざまなことを感じる喜びや楽しさの過程を仲間と共有することが、次の行動の原動力にもなっ

ていると思います。

——一生懸命やってもむなしいことは続きませんからね。

庄司さん そうですね。私たち自身、いろいろなことに取り組み中で自分たちが変わってきていると思います。同時に、「私たちらしいスタイル」も少しずつ出来てきています。それが「かわさきD.T」の紙面作りにも反映できればいいなと思います。

——最後に、今年取り組みたいことについてお話しください。

庄司さん 今年は、川崎のまちの良いところをどんどんアピールするような冊子を作りたいと思っています。いろいろなまちを見てきた総集版のような形にしたいのです。川崎の市民も行政ももっと自信を持って、お互いが足を引っ張り合うのではなく「良いところをほめ合えるまち」になったらいいなと思います。

——期待しております。今日はありがとうございました。

題字は高橋清・川崎市長

構成／富樫 恭子

文責／田中 閑

写真／山本 綾子

はりきってます グループ紹介

エアロビクスでリフレッシュ

アイ ファイール ファイン ファイン(宮前区)

エイト・ビートの曲にのり、軽快に体を動かし汗を流す女性たち。エアロビクスサークル「アイ ファイール ファイン」は、岡本美和子代表(35)ら四十五人。子は、子育て真っ最中の人が息抜きできる、保育付きの空間である。

火曜か金曜の午前、宮前市民館の体育室に幼児連れの若い母親らが集う。「ワァー」。子供たちの元気な声が部屋いっぱい響く。エアロビのレッスンに先立ち、親子でリズム体操。童謡をバックに「おいかけてっ」「まねっこ」の運動。親も子も笑顔がはじけ、たっぷりスキンシップする。その後、子供たちは保育室へ移る。

ウォーキングが始まる。ひざを胸の高さまで上げ、ひじも前後に大きく振る。髪をかきあげるように腕を動かす肩回し。ふだん使わない筋肉を動かし鍛え、血行をよくする。

腰と背中ストレッチでは「大

保育あり 私に戻る時間で気分は緩、体は鍛



きなテーブルを拭くつもりで、手を前から後ろへ動かして」とインストラクターで会員の山本雅さん(40)の明るい声が飛ぶ。リズム

に合わせ、軽やかに動く会員。ほおが紅潮し汗が滴り落ちる。その後、翌々月のダンスエキササイズ発表会に向け、苦手なステップを克服する部分練習。「グレイプバインステップ」は、ブドウのつるがからまるような感じで戸惑う人も。山本さんは「うしろパツテン ワンツァー チャチャチャ」と唱え指導する。

「にこやかに。顔の筋肉のトレーニングも。鏡に向かい、表情やポーズを確かめ、練習を繰り返す。このひとときが「母でも妻でもなく、私に戻る時間」という。

同会の誕生は十年前。山本さんが地域の主婦グループに呼びかけ発足した。

初参加の森本マチ子さん(29)は「こんなに汗をかいたのは久しぶり。とても気持ちがいい」。

一歳児がいる望月志乃さん(30)は「気分転換になります。子どもを連れて来られるのがいいですね」と笑顔。

笠原優子さん(39)は「心身ともリフレッシュし、新鮮な気持ちで子供と向き合えます」と明るい。平野麻紀子さん(34)は「子育て中は自分の時間がとれません。ここは少しの間でも子供と離れ、自分のためにできるので楽しい」。

岡本代表は(35)「子供もここが大好きです。体を動かすのでストレッチ解消になりますね。友達の間も広がります」と話す。

連絡は ☎ FAX (865) 6190の山本さん。

文 / 小誌・菅原純子
(カメラ / 小誌・北川春江)

仲間と楽しむ 学ぶ 活動する 子育ての心

手作りの衣装着け 元気と喜びの輪に

世界各国の音楽に合わせ、軽やかにステップを踏む女性グループは「フォークダンス ルナ・向ヶ丘」―宇津木裕子代表（61）―の三十人。フリルの付いた白いブラウスに、お手製の赤、青、緑の鮮やかな花柄のスカートに身を包み、毎週火曜の午前、川崎信用金庫登戸支店のホールで、仲間と手を取り合って、ダンスを楽しんでいる。



この日は、新人が多いので、足慣らしのため「プレスカバックコロ」というユーゴスラビアの民族音楽に合わせて踊る。ほぼ全員

各民族のステップをマスター

フォークダンス ルナ・向ヶ丘（多摩区）

で大きな輪をつくり、その真ん中に五、六人の小さな輪が入り「いちのタタタン」と斜めに大きめにステップを踏む。「思うように体がついていけない」「複雑なステップなので、難しい」という声が聞こえると、指導者の宇津木さんがタイミングよく「できます、できますよ。焦らないで楽しみましょうね」と明るく元気な声で励ます。

新会員が自信をつけたところで「もう少し練習して、今日はミキサ―をやりましょう」と話し、イスラエルやアルメニアなどの珍しいダンスを次々と練習していく。

「アラバマ・ジュビリー・ミキサ―」はアメリカの曲で、ワルツターンより難しいツイ・ステップターンを練習。右足を前にステップ、左足を右足にクローズしてステップ、右足を前にステップ。このターンが出来るとダンスの楽しさが倍増する。最後によく知られている「テネシーワルツ」を全員で踊る

り、にぎやかに締めくくった。フォークダンスは、世界の民族舞踊のことで、それぞれの民族の特徴があり「知れば知るほど楽しく、奥深い」と会員。

同会は、十五年前、前任の講師が亡くなったのを機に再発足。名称も「ルナ」とした。

ダンスは幼稚園以来の仲安美智子さん（64）は「もともと踊るのが大好きで、体で覚えていくのは楽しい」と笑顔で話す。

右田桂子さん（56）は「三十年間、年寄りの介護をしてきて、いま自分の時間が持てました。衣装もすてきで、火曜が来るのが楽しみです」と趣味を見つけた喜びを語る。始めて四年目の荒井嘉久子さん（68）は「五十肩などいろいろな症状が出ていましたが、とても健康になりました」と明るい表情。

世話役の谷澤寿美子さん（57）も「会の雰囲気がとてもなごやかなので、ずっと続けていきたいです」と積極的な姿勢。

連絡は☎（977）9853・FAX（977）9875の谷澤さん。

文／小誌・北川春江
カメラ／小誌・菅原純子

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

「公開講座」生活環境を見直そう◆日本女子大西生田生涯学習センター」1月22日(土)「生活を脅かす化学物質」。蟻川芳子・同大教授

▽1月29日(土)「子どもに必要な環境体験」。佐島群巳・帝京短大教授。各14時半、千500円。☎(952)6822の同総務課。

「①草木染め教室②社交ダンス講習会◆市民プラザ」①は2月5日(土)10時。無料。30人、抽選②は3月11日(土)13時。ワルツなど。2千500円。男女各25人。

③は1月14日(金)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎を記し〒213-0014 新作1の19の1、同プラザ「同教室」②は2月18日(金)直接フロント。☎(888)3131。

「成人学校①仏像の観方に挑戦②風水学③手づくり写真集に挑戦④舞台音響と照明のいろいろ◆高津市民館」①は1月25日(土)の火曜13時半②は20日(土)の木曜9時

半③は27日(土)の木曜14時半④は20日(土)の木曜18時半。④が全10回、他5回。受講料①②③2千円④4千円。教材実費。☎①②③11日(火)10時④同18時半来館。☎(814)7603。

「①地域セミナー」21世紀の高津を考えていこう」②暮らしの講座◆高津市民館」①は1月19日(土)の水曜10時、全6回。無料②は2月2日(土)の水曜10時、全4回。「藤岡流日舞」を。千円。

持参品あり▽3月10日(土)の金曜13時半、全4回。「詩吟」を。千300円。☎①1月12日(火)9時半☎(814)7603の同館②日舞、同19日(火)13時半▽詩吟、2月18日(金)10時来館。

「文化講座①煎茶②民謡③歌曲④シャンソン◆高津市民館」①2月3日(土)の木曜10時②2月2日(土)の水曜13時半③2月1日(土)の火曜10時④2月4日(土)の金曜18時半。各全8回、2千円。先着順。☎1月20日(土)10時来館。☎(814)7603 区文化協会事務局。

「健康セミナー」花粉症に

ついて」◆中小企業・婦人会館」2月26日(土)14時。中川武正・聖マリアンナ医大東横病院内科部長。無料。☎(722)2121内線522同院総務課。「フォーラム」水の潤いと恵み◆産業振興会館」2月4日(金)13時。無料。高橋裕・東京大名堂教授講演。☎(322)6078の日本鋼管テクノサービズ研究支援部内、同実行委。

「公開講座①昭和史をふりかえる②生麦事件を学ぶ◆プラザ田島」①は1月27日(土)。山田朗・明治大助教授②は2月3日(土)。生麦事件参考館館長、浅海武夫さん。各14時。無料。35人、抽選。☎1月15日(土)までに、往復はがきに受講日、住所、氏名、年齢、☎を記し〒210-0835 追分町16の1、同プラザ同講座係。☎(333)9120。

「公開講座①油絵入門、全10回②初めてのワードとインターネット、全3回③パソコン検定試験対策講座3級・4級、1回④エクスサイズ、全4回⑤書道、漢字、全10回⑥宗家に学ぶ煎茶、全6回◆玉川大学」日程、受講料などの問い合わせ042(739)8895の同大継続学習センター。玉川学園駅前下車。

「①講座「アウトドアボランティアの基礎の基礎」②ニューカッパルセミナー③地域セミナー」日本の伝統行事にふれる」◆宮前市民館」①は2月13日(土)の日曜10時、全5回②は2月5日(土)の土曜10時、全6回。25組、抽選③は1月14日(金)13時。無料。☎①は2月6日(土)10時③は1月12日(火)まで☎(888)3911の同館②は1月22日(土)までに往復はがきに住所、2人の氏名、☎、出産予定日を記し〒216-0006 宮前平2の20の4、同館同セミナー係。

「①地域セミナー・バリアフリーやさしいまちづくり公開講座②黒川地区シルバセセミナー③ニューカッパルセミナー◆麻生市民館」他①は1月16日(土)13時半。障害者いきいき情報センター、山添眞爾夫さん②は2月2日(土)隔週水曜14時、全5回。黒川青少年野外活動センター。60歳前後の人③は2月26日(土)土曜10時、全5回。先着20組。無料。☎①受付中②1月20日(木)③2月8日(火)10時から☎(951)1300の同館。

「講習会①拡大写本②手話(夜間)入門◆市中部身体障害者福祉会館」①は2月17日(土)木曜10時、全6回。20人、抽選②は2月23日(土)水曜18時半、全6回。40人、抽選。無料。☎①2月8日(火)②10日(木)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、講習会名を記し〒211-0068 小杉御殿町2の114、同館。

「食生活講座①男の料理教室②ヘルシークッキング◆麻生老人福祉センター」①は2月2日(火)②は2月9日(火)、16日(火)のいずれか。各9時半。各500円。60歳以上。先着。持参品あり。☎1月17日(月)から☎(966)8956の同センター。

「手話入門講習会◆菅生分館」2月25日(土)金曜10時、全5回。資料代300円。

「手話入門講習会◆菅生分館」2月25日(土)金曜10時、全5回。資料代300円。

学習・文化情報

魅力的な講座がある

先着。 ②月10日(休) ☎(977) 9430の手話サークル「宮前の会」山口さん。「ごどもとお母さん」のこころの健康教室◆登戸ドレズメーカー学院 ☎ 2月3日(木) 5日(土) 13時半のいずれか。500円。先着。 ③午前 ☎(911) 2221 同院。「文化講演会「お天気よもやま話」◆宮前老人福祉センター」 ◆倉嶋厚・元NHK気象キャスター。無料。先着。 ④2月17日(木) 9時 ☎(877) 9030の同センター。

①映画史講座「日本アニメーションの黎明」②中級写真講座③デッサン講座 ◆市民ミュージアム ①は1月29日(出)「政岡憲三と瀨尾光世」。秋田孝宏・アニメーション研究者▽1月30日(出)「PCLとJO」撮影所の漫画部。牧野守・映画研究者。各14時、500円。当日先着②は2月12日(毎) 土曜14時、全6回。白黒写真暗室技術習熟者16人、抽選。1万円。材料費別③は2月12日(毎) 土曜13時半、全3回。人物デッサン。6千500円。22人、抽選。 ②は1月19日(休)③23日(出)までに往復はがきに住所、氏名、☎、講座名。返信にあて名。〒211-0052 等々力1の2同院。 ☎(754) 4500。

「家庭の健康セミナー」健康ふれあい広場 ◆麻生保健所 2月26日(土) 10時、講演と運動実技。無料。当日直接。 ☎(965) 5157 同所健康課。 「春休み創作教室①陶芸②トールペイント③料理④茶道 ◆市青少年創作センター」 ①は3月11日(土)と12日(日)曜。②③④は3月25日(土)と29日(水) (除く月) 各全4回。②が13時半、他は9時半。全日程参加できる小学生。20〜30人、抽選。材料費千〜2千円。 ②月25日(金)までに往復はがきに教室名、住所、氏名、性別、☎、学校名・学年を記し 〒214-0034 三田2の3303の1、同センター。 ☎(911) 1510。 「地方新時代」市町村シンポジウム〜21世紀の地方政治 ◆高津市民館他 2月9日(水) 10時、全体会。パネリストは上原公子・国立市長、高橋進・東京大教授他。午後は分科会①応答政府に向けて②市民社会のタフネス・デザイン。特別分科会「地域経済の振興とベンチャー企業育成・産業創造」の会場はKSSP。無料。 ☎FAX (211) 8354、市都市政策部分権推進担当へ住所、氏名、☎、参加希望する会を。 ☎(200) 3708。

市民ミュージアムがおもしろい
大江戸マルチ人物伝 池上太郎左衛門幸豊

池上太郎左衛門幸豊は、その先祖が、長年にわたり携わってきた海辺を開墾し、新しい田に開発する事業を宝暦・天明期(1751~1788年)に完成させ「池上新田」(現・川崎区)としました。また、和製砂糖の製造・普及に努め、今でいう起業家として名を残しました。幸豊はその一方で、冷泉家に入門し短歌を学んだ歌人です。幸豊の「マルチ人間像」に迫る同展にご期待下さい。

会期 2月26日(土)~4月9日(日) 一般900円、小~大学生400円
毎週日曜14時から、学芸員が展示解説

〈関連イベント〉

- 講座「池上幸豊〜その時代と生涯」3月4~25日の毎土曜14時から、全4回。受講料2千円。先着40人。 ②月16日(水) 9時半から電話で
- 記念講演会「近世和歌の世界〜池上幸豊の風雅」3月20日(祝) 13時半から。講師は久保田啓一・広島大助教授。無料。先着270人
- 記念講演会「池上幸豊と川崎」4月2日(日) 13時半から。講師は村上直・法政大名学教授。無料。先着270人
- 見学会「池上新田を歩く」4月1日(土) 13時、JR川崎駅に集合。参加費500円、交通費実費。先着30人。雨天8日。 ③月7日(火) 9時半から電話で

■申し込み・問い合わせ ☎(754) 4500 川崎市市民ミュージアム (武蔵小杉駅からバス)

学習・文化情報

参加したいイベントがある

① 1月11日(火)10時から(541) 3910の同館。
 「講座①パート労働実務
 ②政治社会参画「国際社会における日本の役割」③法律「クレジットと自己破産の諸問題」④女性起業家入門◆市男女共同参画センター」①は1月20日(木)13時半②は1月23日(日)14時半。草野厚・慶應大教授③は2月6日(日)14時。我孫子和子・弁護士④は2月20、27日の日曜9時半全2回。受講料④3千5百円、他は無料。①②③は(813) 0808の同センター④は2月9日(火)までに往復はがきに講座名、住所、氏名、年齢、性別、職業、起業業種を記し〒213-0001 溝口2の20の1、同館。
 「からだセミナー①思春期②出産可能期③閉経期◆男女共同参画センター」①は2月9日(火)②は18日(金)③は3月5日(日)。各14時。無料。先着。保育可。①(813) 0808の同センター。
 「講習会①日本サクラソウの鉢作り②春のガーデニング◆市緑化センター」①



①映画「シティ・オブ・エンジェル」②趣味の教室発表会◆市民プラザ」①は2月12日(土)14時と18時。無料。先着順②は3月4日(土)5日(日)10時。コーラス、着物着付け、太極拳。①(888) 3131。
 「社交ダンスパーティー◆川崎市民プラザ」3月11日(土)18時半。ZAMAビッグバンド。前売り千8百円①2月12日(土)(888) 3131同館、当日二千円。②「ドキュメント映画「えんとつ」◆多摩市民館」1月29日(土)10時半と18時40分。自立した生活をおくる重度障害者と、それを支えるボランティアとのふれあ

い。伊勢真一監督。無料。①(935) 3333。
 「ガリレオ工房科学実験教室◆東芝科学館」1月22日(土)「冷蔵庫のしくみ」。市川和子・立教高校教諭▽2月26日(土)「蛍光を科学する」。大原ひろみ・東落合中教諭。いずれも10時と13時半。無料。先着各50人。①(549) 2200。
 「子育て交流集会」疲れませんか?お母さん同士のお付き合い◆宮前市民館」2月22日(火)10時。無料。40人。抽選。①2月1日(火)までに往復はがきに講座名、住所、親子の氏名(ふりがな)、子の年・月齢、性別、性別、保育の有無を記し〒216-0006 宮前平2の20の4、同館。同集会係。①(888) 3911。
 「親子で楽しむ人形劇◆宮前市民館」2月20日(日)11時と14時。「びんぼう神とふくの神」オフィス山いも公演。3歳〜小学生と保護者。無料。先着順。①2月6日(日)10時、同館で整理券。①(888) 3911。
 「子育て交流集会」食生活

活がつくる子ども心とからだ◆プラザ橘」2月4日(金)10時。女子栄養大公衆栄養学研究室、西村早苗さん。無料。先着50人。保育あり。①1月18日(火)9時から(788) 1531同館。
 「アウトドア入門◆中原市民館」2月4日〜3月17日の隔週金曜19時、2月27日と3月12日の日曜10時。全6回。16〜40歳。無料。実習代実費。30人。抽選。①1月18日(火)10時、(722) 7171同館。
 「映画会」釣りバカ日誌2」◆麻生老福センター」2月16日(火)13時。60歳以上。無料。当日先着150人。①(966) 8956の同館。
 「囲碁・将棋大会◆宮前老福センター」2月16日(火)9時。60歳以上。無料。先着順。①1月18日(火)9時来館。①(877) 9030。
 「星を見る夕べ◆市青少年科学館」1月15日、2月5、12日の土曜18時。月、土星を▽3月4日(土)19時。オリオン大星雲を。無料。曇り、雨はプラネタリウム。

小学生以下は要保護者。①(922) 4731。
 「①天体写真撮影会②星の撮影教室◆青少年科学館」①は2月13日(日)、月を撮影。先着順②は3月10日(金)オリオン座を。先着順。いずれも19時。小5以上。無料。持参品あり。雨中止。小学生は要保護者。①1月19日(火)②2月16日(火)(922) 4731の同館。
 「観察会◆生田緑地」1月16日(日)の毎日曜9時50分、青少年科学館集合。野鳥などの解説。無料。小雨決行。申し込み不要。①(922) 4731の同館。
 「むかしの生活体験◆日本民家園」1月22日(土)23、30日の日曜10時。かまどの火たき、丸太切り。小〜高校生。無料、要入園料。当日先着各20人。①(922) 2181の同館。
 「高校生ワークショップ◆川崎授産学園」3月27日(日)12時半〜29日(火)15時の2泊3日。高校生。4千円。20人。抽選。①3月7日(火)までに往復はがきに住所、氏名、学校名。

小学生以下は要保護者。①(922) 4731。
 「①天体写真撮影会②星の撮影教室◆青少年科学館」①は2月13日(日)、月を撮影。先着順②は3月10日(金)オリオン座を。先着順。いずれも19時。小5以上。無料。持参品あり。雨中止。小学生は要保護者。①1月19日(火)②2月16日(火)(922) 4731の同館。
 「観察会◆生田緑地」1月16日(日)の毎日曜9時50分、青少年科学館集合。野鳥などの解説。無料。小雨決行。申し込み不要。①(922) 4731の同館。
 「むかしの生活体験◆日本民家園」1月22日(土)23、30日の日曜10時。かまどの火たき、丸太切り。小〜高校生。無料、要入園料。当日先着各20人。①(922) 2181の同館。
 「高校生ワークショップ◆川崎授産学園」3月27日(日)12時半〜29日(火)15時の2泊3日。高校生。4千円。20人。抽選。①3月7日(火)までに往復はがきに住所、氏名、学校名。

学習・文化情報

みたい絵画がある

学年を記して2100-0024日進町5の1、福祉センター内、市社福協・ボランティア活動振興センター。(244) 3563。新百合ヶ丘駅からバス。

「さいわい音楽祭◆幸市民館」2月13日(日)14時。「ニューコーカス」がジャズ演奏。無料。先着5百人。1月30日(日)9時、同館で入場券配布。☎(541)3910の同館。

「多摩区リサイクルフェア①展示②リサイクル教室◆同区総合庁舎」①は2月23日(水)10時〜25日(金)、古本などを②は2月23日(水)14時、ケナフ草ではがきを▽同24日(木)14時、牛乳パックからハガキを。いずれも14時。無料。30人、抽選券①不要②2月4日(金)までに往復はがきに教室名、全参加者の住所・氏名・年齢・☎を記して214-8570、多摩区役所区政推進課、イメーリアップ委☎(935)3131。

「フリーマーケット◆登戸区画整理地内」2月27日(日)10時。雨天3月5日(日)。

出店希望(500円)は2月4日(金)までに申し込む。☎(935)3131の多摩区役所区政推進課、多摩区イメーリアップ委員会。

「愛は地球をめぐる〜NGO映画フェスティバル「千葉茂樹監督デー」◆エボルマホール」1月15日(土)14時「こんにちわ地球家族」▽15時「マザー・テレサとその世界」▽16時半、最新作でオーストラリアと日本の知られざる歴史と感動の「愛の鉄道」。他に世界の子どもデーあり。大人1回券600円、1日券千円。高校生以下は大人の半額。☎03(3489)9823の国際ボランティアの会「LOVEEC(ラブエック)」(主催)。会場は狛江駅下車。

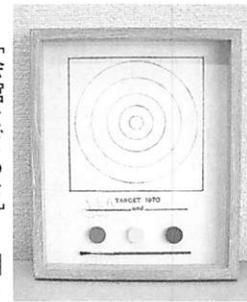
ギャラリー



「ギャラリー幸」1月19日(水)まで「春の神奈芸小品展」▽2月4日(金)〜16日(水)「花の展」。☎(555)8181。川崎駅西口下車。

「画廊ランブ屋」1月22日(土)〜2月29日(火)常設展。

日本画、版画、ジャスパール・ジョーンズのカラージュエリー写真。☎(945)4416。稲田堤駅下車。



「会館とどろき」1月8日(土)〜23日(日)「青芽会写真展」▽1月24日(月)〜31日(月)「学校給食図画作品展」▽2月1日(火)〜15日(火)「小学校図工研究会の「中原区造形展」▽2月17日(木)〜29日(火)、近隣の「小中学校書道展」。☎(733)3333。

「市民ミュージアム」2月13日(日)まで、古筆手鑑「披香殿」の特別公開。1月23日(日)14時、学芸員によるスライドレクチャーあり▽1月8日(土)〜3月31日(金)「靱彦の模写」▽1月25日(火)〜4月9日(日)「時代のシンボル・マーク」亀倉雄策他の作品70点を展示▽1月25日(火)〜3月12日(日)「現代写真の母型1999IV」。



鈴木理策と吉村朗の新作▽2月29日(火)〜4月30日(日)「第21回読売国際漫画大賞展」。扉(ドア)をテーマにした受賞作150点。一般300円、小・大学生100円。☎(754)4500。

「高津市民館ギャラリー」1月12日(水)まで「21はじまり展」▽1月14日(金)〜19日(水)「合同作品展」▽1月21日(金)〜26日(水)小学校「高津区造形展」▽1月28日(金)〜2月2日(火)、王禅寺パステル画会同好会の展示。☎(814)76003。

「アートホール新町」1月8日(土)〜15日(土)と2月6日(日)〜28日(月)、かわさき市民アカデミー会員他の絵

ステージ



画、書道、南画Ⅱ写真Ⅱ▽1月16日(日)〜24日(月)、和衣の会の写真▽1月25日(火)〜2月5日(土)、佐久間五朗収集版画の年賀状150通▽1月8日(土)〜2月5日(土)、リバーカーレントの会の陶芸展▽2月6日(日)〜3月30日(木)、リバーカーレントの会の絵画、写真、書道、俳画、銅彫金。☎(344)6444。川崎駅からバス。

「スナック喫茶琴」1月29日(土)まで、新婦人グループの絵手紙▽1月29日(土)〜2月16日(水)、阿部秀子の風景写真▽2月16日(水)〜3月4日(土)、岡部信之の木版。☎(544)0507。鹿島田駅下車。

「中小企業・婦人会館」1月20日(木)〜23日(日)「雄草会書展」。臨書、詩文、一字書他百点。☎(422)2525。

「洗足学園室内楽コンサート◆横浜みなとみらい小ホール」1月13日(木)17時半開演。オーデイションによ

学習・文化情報

聞きたい音楽がある

る選抜グループの演奏。プ
ラームス「ピアノトリオ
番」他。全自由席500円。
團 ☎(8556) 2981の
同大演奏部。桜木町駅下車。

「糞金曜奇席◆ギヤラリ
糞」2月4日(金)19時開演。
林家錦平の落語。前売り券
千300円。團 ☎(812)
6090。溝ノ口駅下車。

「たちなばコンサート◆
プラザ橋」3月11日(出)13
時と15時開演。出演工コ
ー・ストリングス・カルテ

スポーツ

◆「卓球②優しいヨーガ
◆会館とどろき」受講者を
随時募集①は毎月曜10時と
13時。各3千200円②は毎
火曜10時。4千200円。團
☎(733) 3333。
「特別少年スポーツ教室

会員募集

●ゆりがおか児童合唱団
《丸山博子代表》山田榮子
さんの指導で小学生から高

ット。パツヘルベル「カノ
ン」。先着各130人。無料。
整理券2月25日(金)10時同
館で。團 ☎(788) 15
31。

「ランチタイムコンサ
ー①新春の華やき②トレモ
ロ◆市役所第3庁舎」①は
1月19日(水)。滝廉太郎「花」。
住吉和子(ソプラノ)。藤木
明美(ピアノ)②は2月16
日(水)。サルバトーレ「カタリ
カタリ」。遠藤隆己(マンド
リン)井出久美子(ピアノ)。

①はじめてのフットサル
(サッカー)②フットサル
レベルアップ◆とどろきア
リーナ」①3月1日～15日
の毎水曜15時、全3回②3
月22日(水)15時と29日(水)13
時半。いずれも小4～6年
生。各30人。抽選。各45
0円。團2月5日(出)15時来
館。☎(798) 5000。

校生までが楽しく歌ってい
ます。練習は毎週火曜、サ
ンラフレ集会所(百合ヶ丘
駅下車)でしています。16
時から小学1～3年。17時
からは小学4～高校生。入

各12時15分開演。無料。
團 ☎(222) 8821の
市文化財団。

「ミュージアムライブ
「江戸の音」歌舞伎にみる
楽器表現」◆市民ミュージ
アム」3月11日(出)18時半開
演。笛・福原徹、囃子・望
月左太郎他の出演。竹内道
敬・放送大学客員教授の解
説あり。一般2千円、小中
生千円。3百人。團2月22
日(水)9時半から☎(754)
4500の同館。

会金3千円。月会費3～4
千円。なお、幼稚園児のレ
ッスン「ドレミスクエア」
も火曜16時から同所で行
っています。月会費2千円。
連絡は☎(953) 020
5の菅野さん。

●中国語研究会《木澤真
一代表》中級の会話テキス
ト、中国の小学校の教科書
を使い、学習しています。
毎週土曜10時から、県川崎
合同庁舎(八丁畷駅下車)。
月会費4千500円。連絡は
☎(246) 0536の木
澤さん。

編集後記

「大切なこと発見隊」に
新春のごあいさつ

ひよんな事
から「ステ
ジ・アップ」
編集チームに
入って八九月
▼この間に、
実にさまざま
な発見と感動がありました
▼先月号「グループ紹介」
の「ABCキルト川崎支部」
の女性たちは、世界中の工
イズの赤ちゃんに手作りの
キルトを送っています▼名
も知らぬ幼児に届くことを
想い、一針ずついいねいに
縫っていく気の遠くなるよ
うな緻密な作業▼女性の属
性に根ざしたささやかです
が、偉大なボランティアと
言えます▼泥土にきらりと
光る宝石を見つけた思いで
す▼今年は、願わくは更に
大いなる発見と感動を(北
川)。「世界中のやさしさで
この地球をつつみたい」▼
今号「いまを話す」のゲス
ト庄司佳子さんの話を聞い
ているとき、NHKテレビ
「生きもの地球紀行」のテ
ーマ曲「bee i e v e」ビ

リーブ)の一節が頭をよぎ
りました▼「ミニ」誌の発
行や矢上川での活動で出会
った人と共感の輪を紡いで
いる庄司さん▼人と地域に
注ぐそのまなざしは「人間
つていいな」と温か▼前述
の曲の終わりは「i b e
lieve in fut
ure 信じてる」▼地球
に生きるすべての仲間にと
つて、幸せな未来になると
信じた(菅原)。年始のご
あいさつは、手ぬぐいが定
番▼私の父は、下田信用金
庫の行員で、下信ではカレ
ンダー▼私が高校生のとき
「もう少し高級な物のほう
が喜ばれる」と話すと、父は
「カレンダーを2百人に配
つても、預金する人は1人
いるかどうか。カレンダー
1本いくらだと思つ」と渋
い顔▼この話を思い出した
のは、先日、昭和音大生涯
学習センターの中村周さん
が「ステジ・アップ」にう
ちの情報が載つたら3人も
応募があり、すごい読者層
とと思いました」と感謝され
たからです▼PRの大切さ、
大変さを学びました(山本)。

「ステージ・アップ」の読者のみなさま、私は二〇〇〇年一月一日付けで、ステージ・アップ編集チームから、学習事業室出版事業担当(新設)に異動します。今後の仕事は、市民アカデミーの講座検索システムづくりや講座を簡易製本にするための文章整理です。また、四月からは「市民アカデミー叢書」(新書判)刊行へ向けた仕事加わることです。

私は常々「現代においては、好きな仕事に携わっている人、経験が生きる仕事を続けている人は、とても幸せ」と思ってきましたが、今までの仕事もこれからの仕事も、このことを満たすものです。

この八年間を顧みますと、一九九一年、「生涯学習の時代」にふさわしい情報誌づくりを」との指示を受け、当事業団のPR誌「ステージ・アップ誌」(季刊)を同年九月号から「生涯学習情報誌」に衣替えし、今日に至っています。

あのころ、「生涯学習」という言葉そのものが「市民権」を得ていたとは言えず、そうした中、ステージ・アップ誌を「生涯学習情報誌のパイオニア」と位置付けた高橋清市長、大熊辰熊教育長(当時)

の先見性に改めて驚嘆しています。同時に、小誌への提案や紙面の評価、建設的批判を下さった読者の方々に「ステージ・アップ育ての親」と考えています。

「ステージ・アップ」誌とともに歩んだ八年間は、私にとってゴールデン・エージでした。小誌を媒体にして、たくさんの自立した市民の方々とさまざまな事柄について、腹藏ない意見交換ができ、意見が異なることがあっても、心と

ジ・アップってというのは、人の輪を少しずつ大きくしていき、ある輪と他の輪がリンクしたり、交差しながら、それぞれの市民が心身ともに輝きを増していくことに、ひと役も二役もかかっている」との高い評価と結びつきます。

また、「いまを話す」のインタビューの質問は厳しい」との意見がある反面、「私の話した事実や考えを数ページの紙面の中で正確、明快にまとめてくれた」(李仁

市民がスターの紙面づくり8年

さらば、「ステージ・アップ」 田中 園

心のふれ合つ日々を過ごせました。

「ほんねインタビュー いまを話す」は「人から学ぶ」をキーワードとして企画しました。けれど

「行政と市民のパートナーシップを目指す市政の市民参画の「ステージ・アップ」は、分野別人情報源」(西村美東士・徳島大学大学開放実践センター助教授)の側面

もありました。それは、元中央公論編集長で、多くの市民活動に関与した故藤田親昌さんの「ステー

夏牧師)と信頼を寄せるゲストも少なくありませんでした。

さらに、九六年二月、麻生区であつた市民手づくりの「Stage Up」読者のつどい(呼びかけ人会議代表・飯田和子川崎ごみ

連代表)には、ティーパーティー形式で百五十人が参加し、小誌への思いを述べ、提案する中身の濃い集いでした。高橋市長は「ステージ・アップは、書いて記録として後に残る大事な役目を果たして

います。率直な表現と、異なる角度からみなさんに訴え、その熱意が「集い」になったのでしょうか。それが十・二十年と続き「あの時代、あの人が、あのように話したのか」と評価されるよう、ご支援をお願いします」と結びました。

さて、小誌についてさまざまな評価があることは当然ですが、「地方分権の時代」「ユネスコ宣言の学習権」「高橋市長の『市民の内発的発展に基づく市政運営』などへの正確な認識を前提にしたジャッジを切望したいと思えます。

ところで、最近、市民の方々に、紙面についてご心配をお掛けしています。今後、当事業団の峰岸雄・副理事長(編集責任者)から紙面改革について説明があると思えます。ここでは「いまを話す」が四月号をもって最終回になることをお伝えします。

私は、生涯学習先進都市の川崎で「市民がスターのステージ・アップ」の仕事に全力で取り組めたことを誇りにしています。今後は一読者として熱い視線で応援します。

「自立した市民のご支援に感謝」

「さらば、ステージ・アップ」。

かわさき市民アカデミー会員を募集 2月1日から

多彩な学び ますます充実 4～7月開設講座一覧

No.	講座名	講師	曜	開始時間	会場
1	関係のなかの人間	小田垣雅也・元国立音大教授他	月	9:20	①
2	江戸の家族とライフスタイル	太田素子・湖北短大教授	月	11:00	①
3	日本政治の現状と課題	高島通敏・駿河台大教授	月	11:00	①
4	世紀転換期のヨーロッパ政治地図	小川有美・千葉大助教授他	月	9:20	①
5	文学作品にみる病の人間学	立川昭二・北里大名誉教授	火	10:30	①
6	新しい新聞学	西島建男さん(ジャーナリスト)	火	10:30	①
7	川崎の自然	三島次郎・桜美林大名誉教授	火	10:00	野外
8	近代日本の思想	松本三之介・東京大名誉教授	火	10:30	①
9	生活の中の高齢者問題	市川一宏・ルーテル学院大教授	火	10:30	④
10	印象派再考	三浦篤・東京大助教授	水	10:30	②
11	辞典(事典)入門	寺澤芳雄・東京大名誉教授	水	10:30	①
12	都市の活力とはなにか	篠原一・東京大名誉教授他	水	13:00	①
13	オペラの舞台と舞台裏	海老澤敏・新国立劇場副理事長他	水	10:30	①
14	文明としての食	樺山紘一・東京大教授他	水	10:30	①
15	歌舞伎とその音楽	竹内道敬・放送大学客員教授	木	10:40	①
16	宇宙と生命	大島泰郎・東京薬科大教授	木	10:30	①
17	就業と失業の日本近代史	加瀬和俊・東京大教授	金	9:20	①
18	金融の安定と不安定	伊藤正直・東京大教授	金	11:00	①
19	地域の中の高齢者福祉	一番ヶ瀬康子・長崎純心大教授他	金	11:00	①
20	みどり学Ⅰ	野沢清・東京農大講師他	金	10:30	①
21	環境共生とみどり	岸由二・慶應大教授他	金	10:30	②
22	川崎史の課題に迫る	村上直・法政大名誉教授他	土	10:00	①
23	市民ネットワーキングの可能性	川崎市総合企画局職員他	土	13:00	①
A	憲法改定問題を考える	永井憲一・法政大教授	金	18:30	③
B	落語を聴く	太田博さん(大衆芸能評論家)	木	18:30	②
C	文章の書き方、詩の作り方	中島信吾さん(詩人)	月	18:30	①
D	油絵を描く	佐藤一郎・東京藝大教授他	水	18:00	①

■講座名・講師は変更することがあります

【会場】①川崎市生涯学習プラザ、②新百合21ビル、③川崎タワーリパークビル、④エポックなかはら
 【費用】入会金は2万円(川崎在住・在勤)、1講座・1演習各5千円(いずれも14回)、A～Cは4千円(6回)、Dは2万5千円(17回)
 【申し込み方法】募集案内パンフレットの添付はがきを郵送【応募期間】2月1日(火)～12日(土)◆パンフレットは1月下旬から当事業団・各市民館・図書館・区役所などで配布◆聴講生も同時募集◆問い合わせ☎044(733)6626 かわさき市民アカデミー事務局(日曜・祝日休み)

●発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団
 電話044(952)5000代

F 〒215-0004
 A 川崎市麻生区万福寺一の二、新百合21ビル
 X 044(952)1350
 編集人・田中 囡